

長期モニタリング計画 評価の進め方に係る主な指摘と対応

No.	主な指摘事項 (R1.8 科学委員会, R1.9 適正 利用・エコツアーリズム WG)	事務局対応
<色と矢印による評価の記号化について>		
1	赤と緑は色弱の人には識別困難らしいので、配慮が必要ではないか。	ご指摘を踏まえ、ガイドラインに基づき、色弱の方でも識別しやすい配色となるよう配慮する。
<個別モニタリング結果の評価・数値化について>		
2	報告書作成の有無と調査結果の評価を同列に数値化して平均をとるといのはおかしい。分けるべきではないか。	ご指摘を踏まえ、評価基準がない個別項目（基礎情報や評価基準の設定が困難な項目）は数値化せず、評価基準のある項目のみ数値化する。
3	遺産管理の努力（施策）による改善があれば点数が上がるべきだが、遺産登録時が5（最良）だとするとそれ以上点数が上げようがない。	評価（数値化）の対象は管理施策ではなく評価指標であり、また、管理施策の数値化は困難と考えられる。 一方、評価項目の評価に関連の深い管理施策として特筆すべき内容があれば、評価シートに記載する。
4	明確な水準に対してその上か下かを示すにあたり「適合」、変化がないことを示すにあたり「現状維持」という言葉を使うのが適切かどうか疑問。	過年度の中間総括評価等においても同一の用語を使用しているため、今回の評価作業でも原則として同じ用語で評価する。ただし、より適切な表現（言い換え）のご提案があれば、今年度第2回の科学委員会で検討。 なお、次期長期モニタリング計画の検討時（R3年度予定）には、用語も含めて改めて精査する。
5	「改善」や「悪化」の判断は、対象とする期間（タイムスパン）が非常に重要である旨どこかに記載すべき。	ご指摘を踏まえ、対象期間は長期モニタリング計画期間を基本とし、データ蓄積状況等を勘案して各WG等で判断する旨を評価作業の進め方資料（資料8-1）に記載する。

No.	主な指摘事項 (R1.8 科学委員会, R1.9 適正 利用・エコツーリズム WG)	事務局対応
6	評価シートには今後につながるように「課題」欄を作るべき。	ご指摘を踏まえ、評価項目の評価シートは課題についても記載する形とする。
7	No. 15 ヒグマの人身被害状況は、Ⅶの評価に係る項目としてはズレがあるように思う。むしろ No. 16の方が良いのでは。	Ⅶの評価要素の一部として、今回の評価は既存の枠組みで実施。 次期長期モニタリング計画の検討時(R3年度予定)に、関連WGで再度整理。
<評価項目の総合評価(評価値)について>		
6	<p>個々のモニタリング結果の平均による評価値の解釈が困難。例えば3.5という評価値は合格か不合格か、合格だとして優良可のいずれなのか。</p> <p>→評価値に、個別モニタリング項目の数値化の考え方としている「問題のない状態／ある状態」といった解釈を対応させれば良いのでは。</p> <p>→1や2など低評価の項目の割合が少ない又は減っていけば「良くなっているのだな」とわかる。そんなものでも良いのでは。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、対外的にはわかりやすいというご意見もあった評価値(平均値)は残しつつ、その解釈にあたる考え方をなるべく簡潔に併記する。</p> <p>評価の背景や詳細の説明については、評価項目の評価シートの中で記載するほか、個々のモニタリング結果の評価シートを添付することで対応。</p>
<評価結果の取扱いについて>		
7	評価値として出た結果をどう扱うのか。緊急性の高い対策を見極め、対外説明に活用するといった評価結果の運用方針が重要。	評価結果は今後の遺産管理施策に活用する方針としており、個別具体的な運用は引き続き関係行政機関で検討。
8	長年の対策経緯をストーリーとして伝えるためにも、一般(特に地元高校生)向けシンポジウム等で平易に説明(教育)する場を設けるべき。	総合的な評価が固まる予定である R3 年度頃に向けて、「知床の日」の活用等について関係行政機関で今後検討。